

研究分野	病理	機関・部	水産総合研究所・資源増殖部
研究事業名	海産魚類防疫巡回指導事業		
予算区分	研究費交付金（産技センター）		
研究実施期間	H13～H23		
担当者	菊谷 尚久		
協力・分担関係	青森県産業技術センター内水面研究所		

〈目的〉

海産魚類の増養殖場における魚病被害の軽減とその蔓延防止を図るため、魚病発生時の早期診断及び治療等対策を行うとともに、増養殖場を巡回し防疫指導を行う。

〈試験研究方法〉

1 魚病診断

海産魚介類増養殖場からの魚病相談及び防疫巡回指導時の依頼により病魚の外観症状、解剖所見及び病原体検査により魚病診断を行う。

2 防疫指導

海産魚介類増養殖場20ヶ所(図1)を対象に巡回し、魚病の発生状況、水産用医薬品の使用状況、防疫対策状況等を調査するとともに防疫指導を行う。

3 魚病情報収集・技術研修

魚病関連の会議や研修に参加し、情報交換及び情報収集等を行う。

〈結果の概要・要約〉

1 魚病診断

平成21年度の魚病診断件数は、表1に示すとおり合計8件で、前年度より4件少なかった。魚種別に見ると、例年同様、栽培漁業対象種が大部分を占めており、ヒラメは3件であった。疾病別では、細菌性疾病4件、細菌性疾病と寄生虫症の合併症が1件、その他が3件であった（表2）。

2 防疫指導

海産魚介類増養殖場を巡回した結果、使用できる水産用医薬品が限られていることや例年顕著な疾病の発生が少ないことから、水産用医薬品を保有している施設は少なく、使用しているところも少なかった。また、水産用医薬品の適正使用については、毎年の巡回指導により周知されてきている。

3 魚病情報収集・技術研修

県魚類防疫会議、魚類防疫体制整備事業北部日本海ブロック地域合同検討会等で情報交換を行った。

〈主要成果の具体的なデータ〉

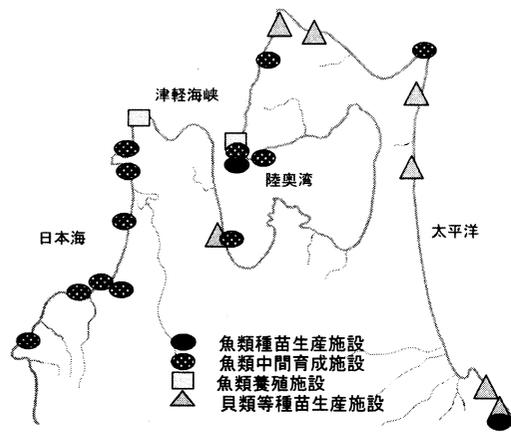


図1 防疫指導対象の海産魚介類増養殖場

表1 年別魚種別魚病相談、診断件数の推移

魚種名	17年	18年	19年	20年	21年	合計
ヒラメ	2	3	4	4	3	9
クロソイ	3	7			1	10
マコガレイ	5	1	4	2	1	10
マダラ			1			1
ウスメバル	7	3	4	2	1	14
キツネメバル	1		3	3	2	4
ニジマス	2	1		1		3
エゾアワビ						0
ヌマガレイ	2					2
合計	22	15	16	12	8	53

表2 魚種別疾病別診断件数（平成21年1月～12月）

疾病名	ヒラメ	マコガレイ	ウスメバル	キツネメバル	クロソイ	合計
連鎖球菌症				1		1
滑走細菌症		1	1		1	3
滑走細菌＋寄生虫				1		1
腹部膨満症	1					1
腸管白濁症	1					1
不明	1					1
合計	3	1	1	2	1	8

〈今後の問題点〉

魚病診断については内水面研究所との連携を図り、魚病発生時の迅速な対応に努める必要がある。また、ヒラメでみられた腹部膨満症及び腸管白濁症の被害が大きかったことから、これら疾病への対応について関係機関による対応策について検討する必要がある。

〈次年度の具体的計画〉

海面の魚病診断については内水面研究所が中心となって実施し、当研究所では簡易な魚病検査等を実施する。海面の防疫指導、魚病情報収集・技術研修等については今年度と同様に実施する。

〈結果の発表・活用状況等〉

県魚類防疫会議、魚類防疫体制整備事業北部日本海ブロック地域合同検討会で報告した。また、巡回指導時に事例紹介し、防疫対策に活用した。